

## ■東京大賞典（GI）アラカルト（過去全 62 回の分析）

---

- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 9 回（昭和 38 年）までは「秋の鞍競走」の名称で実施
- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 7 回（昭和 36 年）までは大井ダ 2600m、第 8 回（昭和 37 年）から第 34 回（昭和 63 年）までは大井ダ 3000m、第 35 回（平成元年）から第 43 回（平成 9 年）までは大井ダ 2800mで実施
- ※第 41 回（平成 7 年）からは指定交流競走として実施
- ※第 57 回（平成 23 年）からは国際競走として実施
- ※記録は平成 29 年 12 月 1 日時点

### ■単勝 1 番人気馬の 3 着内率は 7 割弱

単勝 1 番人気馬は 21 勝、2 着 14 回、3 着 6 回で、3 着内率が 66.1%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 12 回、3 着 8 回で、3 着内率が 51.6%、単勝 3 番人気馬は 10 勝、2 着 9 回、3 着 8 回で、3 着内率が 43.5%となっている。上位人気馬はそれなりに信頼できるようだ。ちなみに、単勝 10 番人気以下で優勝を果たした馬はまだいない。

### ■近年は上位人気勢の健闘が目立つ

過去 62 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 24 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。ちなみに、第 53 回以降の過去 10 回中 9 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着、3 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着だ。

### ■優勝馬の大半は 5 歳以下

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 16 勝、4 歳が 21 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 6 勝、7 歳が 3 勝となっていた。なお、6 歳で優勝を果たしたのは第 57 回のスマートファルコンが最後、7 歳以上で優勝を果たしたのは第 33 回のテツノカチドキが最後である。

### ■“連覇”を達成した馬は 3 頭

帝王賞において 2 回以上の優勝経験があるのは、第 30 回と第 33 回を制したテツノカチドキ、第 50 回と第 51 回を制したアジュディミツオー、第 56 回と第 57 回を制したスマートファルコン、第 59 回と第 60 回を制したホッコータルマエの 4 頭で、テツノカチドキを除く 3 頭は 2 年連続の優勝だった。

## ■牝馬は6勝、外国産馬は2勝

牝馬は第1回のみスアサヒロ、第13回のみガシジヨオー、第35回のみロジータ、第38回のみドラルオウカン、第39回のみホワイトシルバー、第46回のみファストフレンドと、これまでに6頭が優勝を果たしている。また、外国産馬は第43回のみトーヨーシアトル、第49回のみスターキングマン、昨年第62回のみアポロケンタッキーと、3頭が優勝を果たした。

## ■JRA所属馬が“11連勝”中

指定交流競走となった第41回以降の計22回に限ると、地方所属馬は4勝、2着5回、3着8回、JRA所属馬は18勝、2着17回、3着14回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第51回のみアジュディミツオーが最後、連対を果たした地方所属馬は第56回2着のみフリオーンが最後、3着以内となった地方所属馬は第60回3着のみサミットストーンが最後だ。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝のみ武豊騎手が単独トップ。4勝の内田博幸騎手が単独2位、3勝の赤間清松騎手、佐々木竹見騎手、幸英明騎手が3位タイで続いている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録も「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝のみ小暮嘉久調教師が単独トップ。4勝のみ大山末治調教師が単独2位、3勝のみ岡部猛調教師、出川己代造調教師が3位タイで続いていた。現役では小崎憲調教師、藤原英昭調教師、西浦勝一調教師が2勝で並んでいる。

## ■優勝例がない馬番は15番のみ

枠番別勝利数を見ると、12勝のみ8枠が単独トップ。6枠が10勝で続いている。ちなみに、もっとも勝利数が少ないのは3勝のみ1枠だった。また、馬番別勝利数を見ると、8勝のみ2番が単独トップ、7勝のみ5番が単独2位、6勝のみ3番が単独3位だ。ちなみに、未勝利の馬番は15番だけだが、1番と16番も1勝どまりである。

<伊吹雅也>